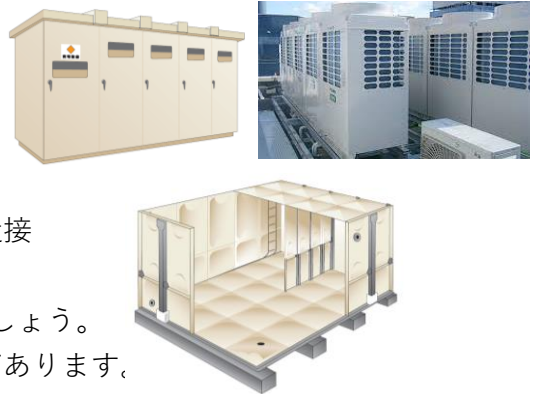


施工段階		屋上工事		5	設備工事： 屋上設備機器設置	シート番号 5-1
電気	空調	衛生	その他			
○	○	○	—			

### ポイント

#### ■屋上に設置する代表的な設備機器

- ・キュービクル、水槽類、空調室外機等があります。内部に水が侵入しないよう防雨・防湿対応を行います。
- ・塩分を含んだ風を受ける沿岸部(2km以内程度)であれば、塩害対策を検討しましょう。沿岸に300m以内に近接している場合、重塩害対策として塗装をさらに厚くし、除塩フィルターを設けるといった追加対策も考慮しましょう。
- ・塩害について海岸からの距離目安としてJRA90002等があります。(一般社団法人 日本冷凍空調工業会標準規格)



#### ■設置場所・メンテナンススペース

- ・設備機器は概ね重量物なので、極力梁上部に配置するよう計画します。出来ない場合は構造設計者と協議の上、重量次第では機器設置面のスラブ補強を行います。
- ・設置する設備機器によってメンテナンススペースの保有距離が定められているので、必ず確保するよう配置します。

### 先輩アドバイス

- ・設置する設備機器の重量や寸法を確認し、搬入方法や搬入ルート(竣工後の改修工事も見据える)をメーカーや保守関係者と調整しておく、竣工後の保守業務も円滑に進めます。
- ・建築、設備の仕様の整合性を確認しましょう。

### チェック項目

- 設備機器のメンテナンススペースは確保していますか。
- 設備機器の設置について、諸官庁との調整は図れていますか。
- 建設地が沿岸部の場合、塩害対策を施していますか。
- 支持部材の仕様は適切ですか。

### 失敗すると...

- ・設備機器の保有距離が確保されていないことで、機器の更新・交換が困難になり、建築主の保守費用のコストアップにつながります。また、竣工時では諸官庁検査で指摘を受け、是正しないと検査済書を受領できず、引渡しできないといったトラブルになりかねません。
- ・機器外装だけにとどまらず、内部基盤や端子部分も錆びて故障します。部品交換又は機器自体の交換になります。

**キュービクルの保守・点検上の離隔距離**  
**屋内に設置するキュービクルの施設**  
 キュービクルを屋内に設置する場合、金属箱の周囲との保有距離、他造営物又は物品との離隔距離は、1130-2表の区分に従い保持すること。

●1130-2表 キュービクルの保有距離

保有距離を確保する部分	保有距離 (m)
点検を行う面	0.6以上
操作を行う面	扉幅※ + 保安上有効な距離以上
溶接などの構造で換気口がある面	0.2以上
溶接などの構造で換気口がない面	

[備考1] 溶接などの構造とは、溶接又はねじ止めなどにより壁面に固定されている場合をいう。  
 [備考2] ※は扉幅が1m未満の場合は1mとする。  
 [備考3] 保安上有効な距離とは、人の移動に支障をきたさない距離をいう。

※高圧受電設備規程より抜粋

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	-	-	○	-	-	-	-	-	-
備考	参考文献：高圧受電設備規程、JRA90002						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂	2023年3月1日	